資料３

第25回アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-25）の開催結果について

2018年11月27日

文部科学省　研究開発局

1． APRSAFとは

（1）目的・特長　等

- 文部科学省及びJAXAが主導する、アジア・太平洋地域における宇宙利用・協力の促進を目的とした、同地域最大規模の宇宙関連会議
- メンバー国・地域や機関を拘束しない、オープンなフォーラムである点が大きな特長
- 1993年に設立以降、文部科学省、JAXA及び開催国の宇宙関係機関の共催により、ほぼ毎年開催
- 各国の宇宙活動に関する情報交換、災害や環境など共通の課題解決に向けた国際協力プロジェクトの立ち上げ等、具体的な協力活動を実施

（2）構成・活動内容

- 本会合と４つの分科会により構成
- 日本と開催国の共同議長制。日本側議長は文部科学省 研究開発局審議官
- 地域の課題解決に向けた複数の国際協力プロジェクトを立ち上げ、具体の協力活動を実施

【分科会】

宇宙利用分科会　宇宙技術分科会　宇宙環境利用分科会　宇宙教育分科会

【国際協力プロジェクト】

センチネルアジア（災害管理）　SAFE（地球環境観測）　Kibo-ABC （ISS「きぼう」日本実験棟の利用促進）

2． APRSAF-25の開催結果

（1）日時・場所　等

【日時】2018年11月6～9日
【場所】シンガポール
【主催】文科省、JAXA、シンガポール宇宙技術協会
【参加規模】

- 政府機関、宇宙関係機関、大学・研究機関、民間企業、国連等の国際機関から幅広く参加
- 全日程を通じて、29カ国・地域から約385名が参加

（2）テーマ・ポイント

【テーマ】進化するニーズに応える革新的な宇宙技術　Innovative Space Technology for Evolving Needs
【ポイント】

- 昨年から開始した宇宙政策セッションや
  宇宙探査セッション、各WG等で日本がイニシアチブを発揮
- 測位衛星「みちびき」のサービス開始をアピール
- 「S-Booster in Asia」の立上げをアピール
- アジア・太平洋地域の学生向けロボット競技会企画発表

©JAXA

2．APRSAF-25の開催結果

（3）共同声明概要

1）進化するニーズに応える革新的な宇宙技術

- スペースデブリの低減等、経済・社会の発展に伴う新たな社会的ニーズ・課題に対処するため、宇宙機関は革新的な技術の開発・向上を図る必要。

2）アジア･太平洋地域の宇宙技術力の向上

- 小型・超小型衛星の共同開発等、地域全体の宇宙技術に関する能力向上を図る試みが行われてきたことを評価するとともに、今後も継続・強化していくことの重要性を確認。

3）社会実装に向けたユーザー機関等との連携

- センチネルアジア・SAFE等、国際協力プロジェクト活動の一層の推進とともに、利用機関、開発援助機関、国際機関との更なる連携強化の重要性を確認。
- 地域をカバーする新たな衛星測位システム「みちびき」のサービス開始を歓迎。

4）アジア太平洋地域の宇宙政策コミュニティの形成

- 事業化を促進する宇宙政策や「S-Booster in Asia」等の宇宙ビジネスアイデアコンテストのプログラムの立上げ等により、宇宙産業へのニュープレーヤーの参入促進を期待。
- 地域の宇宙政策担当者が、定期的に集まる機会の設定が推進されていることを歓迎。共通の社会課題の解決に共に取り組んでいく協力機会の創出へと繋がることを確信。

2．APRSAF-25の開催結果

（3）共同声明概要

5）将来の宇宙探査活動への参加促進

- 宇宙探査には、地域の新興国や非宇宙部門等が参加可能な多様な機会があることを認識。
- 地上技術を宇宙探査に応用し、さらには宇宙探査技術を地上技術に貢献すること、宇宙機関と新興プレーヤーの協力を促進すること、及び若者を喚起することの重要性を確認。

6）将来のAPRSAFに対する期待

- 共通の課題への取組みに対する宇宙機関の役割について、スタートアップ企業を含む産業界との対話を設ける。
- イノベーティブなアイデアを持つ次世代人材や起業家との対話を設ける。
- リージョナルな取組みとUNCOPUOSで議論されている課題を含むグローバルな取組みとの間の更なる連携機会を提供する。
- 地域の課題を解決するためにいかにして衛星データを共有できるかに関する議論を行う。
- 災害リスク低減（災害予測モデル）や宇宙科学に重点を置いた議論を行う。

（4）次回開催予定

2019年11月後半～12月前半頃（時期未確定）、日本において、APRSAF-26を開催予定。